

「させば温州」高接ぎ樹の摘心処理法						
<p>[要約] 「<u>させば温州</u>」の<u>高接ぎ樹</u>では、中間台が大きく枝の伸長を図る必要がない場合は、高接ぎ当年の7月中旬7節を残して<u>摘心処理</u>を行うと、60 cm程度の枝が2～3本発生し枝数増加に有効である。</p>						
長崎県果樹試験場・常緑果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	指導
平成12年度長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

「させば温州」高接ぎ樹で高接ぎ当年の7月中旬に7節を残して摘心した区と、頂芽1本で芽かぎする無摘心区を設け、摘心処理が樹冠拡大におよぼす影響を調査し、早期結実に有効な枝管理法を検討する。

[成果の内容・特徴]

- ① 摘心処理区の枝の伸長は、無処理区より短い、枝の総伸長量には差はない。また、摘心処理区は、夏枝の総伸長量が無処理区に比べ大きい(表1)。
- ② 摘心処理区は、樹冠の拡大は無処理区に比べ劣るが、60 cm程度の枝が2～3本発生し枝数が増加する(表1)。
- ③ 芽かきで頂芽1本に制限して伸長させた無摘心区は、枝の伸長がよい(表1)。

[成果の活用面・問題点]

- ① 無摘心の場合は、支柱を立てて誘引し、枝の伸長を図る必要がある。
- ② 中間台が小さく枝の伸長を図りたい場合は、無摘心とし芽かきで頂芽を1本に制限して伸長させたほうがよい。

[具体的データ]

表 1 「させぼ温州」高接ぎ年の摘心処理と枝の形質 (2000年)

処 理	摘心時枝長 (cm)	枝 径 (mm)	総伸長量 [*] 枝 数 [†] (cm) (本)	枝長平均 [‡] 節間長 (cm) (cm)	葉 数 (枚)
摘 心	64.2	9.2	143.5 2.5	57.4 2.1	59.0
無 処 理	65.1	9.0	141.2 1.0	141.2 2.0	63.3
有意性		ns	ns **	** ns	ns

- * 摘心後発生した枝の総伸長量
- † 摘心後発生した枝数
- ‡ 摘心後発生した枝の平均伸長量

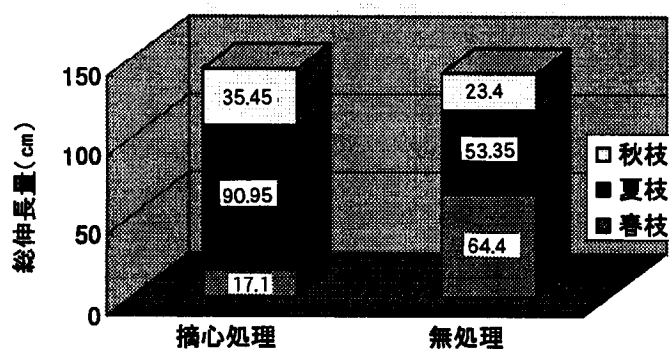


図 1 させぼ温州高接ぎ当年の摘心後に発生した枝の総伸長量

[その他]

研究課題名 : させぼ温州の早期樹冠拡大と高品質果安定多収技術
 予算区分 : 県単
 研究期間 : 平成 12 年度 (平成 11 年～ 14 年)
 研究担当者 : 古川 忠
 発表論文など : なし